

1. 評価結果概要表

作成日 2009年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0370101875		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム田園		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市下太田榊14-2 (電話) 019-656-3630		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年9月30日	評価確定日	平成21年1月5日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 9 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤	17 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 9.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	無	その他実費負担	無
敷金	有(50,000 円)	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円	
	夕食	300 円	おやつ	100 円	
	または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	10 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.67 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田内科医院、菊池歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム田園は、田園の風景に囲まれた閑静な場所に位置している。隣接して老人福祉センターや保育園等があり、利用者は子供達の元気な声を聞きながら、時にはセンターや保育園との交流により、和やかに過ごしている。また職員は利用者がその人らしく笑顔で過ごすことのできるケアサービスを心掛けており、利用者一人ひとりの思いやペースの把握に努めながら、ゆとりを持った生活が続けられるよう支援している。訪問当日には仲よし同士の会話やユーモア、歌などが自然に出て、利用者同士または職員との良好な人間関係が伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で課題とされた理念の共有と日々の取り組みについては、勉強会や全体会議で話題にすることで意識づけを行い、職員間の共有に努めており、日頃の実践につながるよう取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員が分担して取り組み、管理者がとりまとめ記入している。外部評価結果は、勉強会等の機会に職員と話し合い、検討や改善に向けた取り組みを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者の状況報告や行事等についての話し合い、評価結果の報告、地域に関する様々の情報交換などが行われており、それらの結果をサービス向上につなげている。会議参加者は、管理者、事務局、包括支援センター、利用者の家族代表、民生委員、隣接の保育園園長等により構成されているが、今後については消防や警察を交えての会議開催を検討している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時に意見交換する以外に、年に一度の家族アンケート実施や意見箱の設置のほか、運営推進会議に家族代表の参加を得てホームの取り組みに関する意見等を得ている。また会議で話し合われた内容を「田園だより」で報告している。なお苦情等については納得いくまで家族等と話し合い、解決するよう努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣接の保育園や福祉センターの行事への参加や、ホームの行事へ招待するなど相互交流を図っている。ホーム周辺は新興住宅地のために日常的な交流が難しい面もあるものの、交流の起点となる取り組みとして町内会への加入や廃品回収等への協力、ホームでの納涼祭の開催を行っている。</p>

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは、いつもあなたのそばにいて心の声を聞いています。地域の人々や自然とふれあい自分らしく生き生きと笑顔で過ごせるよう、自由で喜びのあるホームを目指します。」と事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内の数か所に掲示しているほか、勉強会や全体会議の際に確認するなど、日頃から意識して実践につなげるよう取り組んでいる。なお地域の交流への取り組みについて課題としているが、運営推進会議等の機会を通して情報を得ながら取り組みにつなげるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接の保育園や福祉センターの行事への参加や、ホームの行事へ招待するなど相互交流を図っている。ホーム周辺は新興住宅地のために日常的な交流が難しい面もあるものの、交流の起点となる取り組みとして町内会への加入やホームでの納涼祭の開催を行っている。	○	引き続き日常的な地域交流を深めていくための取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が分担して取り組み、管理者がとりまとめ記入している。外部評価結果は、勉強会等の機会に職員と話し合い、検討や改善に向けた取り組みをしている。	○	自己評価及び外部評価の取り組みを通して毎年改善あるいは向上につながっているとのことであり、今後も引き続きの取り組みを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告や行事等についての話し合い、評価結果の報告、地域に関する様々の情報交換などが行われており、それらの結果をサービスの向上につなげている。なお、今後については消防や警察を交えての会議開催を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	空室情報等をパソコンで市の担当者へ情報提供しており、運営に関する協力体制がある。また地域包括支援センターとは、運営推進会議等を通じて相談や情報交換等の連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回季節ごとに「田園だより」を発行しており、利用者の表情や行事等の活動について報告している。また家族の来訪時には利用者の健康状態等を報告するとともに、遠方のため来訪できない家族とは、電話で連絡を取り合うこととしている。	○	家族等への利用者の個別の状況報告の方法について、ホームから積極的に発信するような取り組みの検討を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に意見交換する以外に、年に一度の家族アンケート実施や意見箱の設置のほか、運営推進会議に家族代表の参加を得てホームの取り組みに関する意見等を得ている。また会議で話し合われた内容を「田園だより」で報告している。なお苦情等については納得いくまで家族等と話し合い、解決するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎に職員を固定して利用者との馴染みの関係に配慮しているとともに、職員の異動は最小限に留めることとしている。またやむを得ない職員の離職等があった場合には、日々の関わりの中で利用者の様子を伺いながら、不安等の解消に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を掲示して周知を図り、職員の希望する研修や資格取得のための研修に参加できるよう勤務調整を行っている。しかしながら参加した研修の内容について、職員間での情報共有は不十分であるとしている。	○	外部研修等の内容を勉強会等を通して職員全体で共有を図ることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会に管理者または他の職員が参加し、意見交換等を行っている。話し合われた内容はサービスの向上に活かすよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用者や家族がホームの見学に来る際には、お茶など一緒に楽しみながら面談等を行ったうえでサービスの利用につなげている。しかしながら直ちにサービスを開始する場合等には、必ずしも全ての利用希望者が納得して入居するとは限らないため、利用者の混乱がみられることもある。	○	不安の見られる利用者への対応について、利用者の家族やそれまで関わっていた関係者等の協力を得ながら、職員間で話し合い共通認識を持つ等、利用者の安心感を高めるための配慮が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は毎日の生活を共にする中から、利用者一人ひとりの得意なことやできることを見出し、お茶や生け花、歌や踊り等活躍できる場面づくりを行っている。その際には話を引き出しながら、学び支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者自身が具体的な希望を表わせない場合には、本人にとって何が一番いいのか、日々の言動や態度や表情等から思いを汲み取るよう心がけており、個別援助計画に反映しながら支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの心身の状況や生活環境等の情報を把握しながら、利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聞き、また目標や課題となることを職員間で話し合い、個別援助計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとに定期的な介護計画の見直しを行うほか、日々の利用者との関わりや記録を通して、利用者の身体的機能の低下等の変化が見られる場合には協力医等の情報を得て、その都度計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するデイサービスの車椅子対応車を借りてドライブへ出かけたり、本人や家族の希望に応じて、医療機関への受診援助や個別の外出に付き添うなど、出来る限り対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族の意向を尊重した医療受診を支援している。協力医療機関へ変更を希望する場合には、必要な情報交換等によるスムーズな移行に努め、本人や家族との良好な関係構築につなげている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者は全体的に元気な方が多く、具体的な取組みには至っていないが、職員や協力医または主治医、家族と話し合い、その準備のための取組みについて話し合いを行っている。	○	今後利用者の高齢化や重度化が進むことを考え、方針の共有を全員で出来るような話し合いを継続されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に記載されている書類は鍵付きの書棚や引き出しに保管している。また排泄や入浴介助は原則同性介助を行い、羞恥心に配慮して取り組んでいるが、不用意な声掛け等の反省や気づきは申し送り時等に話し合い改善を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れの中で、食事や入浴時間はある程度決めていたが、一人ひとりの体調に配慮しながら日中散歩に出かけたり共用スペースで会話を楽しんだり、利用者一人ひとりのペースで過ごせるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、味付けのアドバイスや配膳、後片付け、洗い物等を職員と一緒にやっている。また食事前の歌など利用者から自然に出るなど、職員も利用者と同じ席に着き会話をしながら楽しい食事となるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望に添った入浴に心がけており、声掛けをしながら最低でも週2回は入浴できるよう支援している。また一日の入浴できる時間帯は決められているが、長い時には1時間ほど入浴を楽しむ等、個人のペースに合わせて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることや、趣味を活かせるよう支援しており、鉢の花の手入れや洗濯たたみなどの役割などで日常の暮らしに張り合いや喜びを見出せるように努めている。散歩やドライブ、外食を楽しみとしており、利用者の気晴らしにもつながっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や年に3～4回の外食、ドライブなどを通して外出の機会を設けている。又、ほとんど毎日近所のスーパーへの買い物や、喫茶店へ立ち寄る等の外出を楽しみとしている利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の居室には鍵を備え付けておらず、また日中は玄関の鍵をかけずに自由に入出入りすることができる。玄関にはセンサーを設置して、防犯または見守りのための体制を整えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については運営推進会議にて働きかけをしているほか、近隣の保育園やデイサービスと合同で避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練はこれから検討したいと考えている。	○	消防や警察を交えての運営推進会議開催が検討されているので、その機会等を利用して、災害時等の協力体制がさらに築かれていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の一人ひとりの食事量や水分確保についてチェック表に記入して、それらを参考としながら食事提供を行っており、年齢や日常生活の活動量に見合った栄養摂取となっている。またきざみ食やおかゆ、糖尿食にも個別に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の間は腰掛けるのにちょうど良い高さがあり、利用者は腰をかけてテレビを見たり、会話をしたりと自由に過ごしている。壁には紅葉の折り紙が飾られ季節感も感じられた。湿度または温度の配慮もなされており、適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ、冷蔵庫、位牌、手押し車など使い慣れたものや好みのもが置かれていて、居心地良く過ごしている様子が伺えた。		